

株式会社 ネットワールド様

PSFTでセキュリティ強化と業務の効率化を同時に達成



株式会社ネットワールドは IT インフラストラクチャのソリューション・ディストリビューターであり、Proofpoint のマスターディストリビューターでもあります。ネットワールドでは、情報漏えい・誤送信対策としてパスワード ZIP を使ったソリューションを運用していますが、より使いやすいソリューションとして、PSFT を採用しました。結果、情報漏えい対策のコスト削減だけでなく、社員の生産性も大幅に向上させることができました。導入の経緯と成果について、ビジネスプロモーション部の藤森氏にお話を伺いました。

ネットワールドについて

株式会社ネットワールドは、IT インフラストラクチャのソリューション・ディストリビューターとして、クラウド・コンピューティング時代の企業IT基盤を変革する技術製品と関連サービスを提供しています。サーバ、ストレージやネットワーク、そしてアプリケーションやデスクトップの仮想化に早期から取り組み、次世代のITインフラストラクチャのあるべき姿をリードしています。

パスワード ZIP ソリューションの運用コストを計算

ネットワールドでは、電子メールの添付ファイルが意図しない相手に漏えいすることを防ぐために、パスワード ZIP を使ったソリューションを導入しています。パスワード ZIP は広く普及しているため、送信者も受信者も仕組みを理解しやすいというメリットがありますが、セキュリティを確保するためにはパスワードを別メールで送る必要があるため、送信者にとっては同じ宛先にメールを2回送る必要があり、添付メールを大量に送る必要のある部署・担当者にとっては負担となる場合もあります。

ネットワールドが採用しているソリューションでのメール送信の手順は、

- 1 ユーザーがメールを作成し、ファイルを添付。
- 2 メールを送信すると、メールゲートウェイが添付ファイルを検出し、自動的にパスワードZIPファイルに変換。(パスワードは都度システムが自動生成)
- 3 パスワードZIP化した添付ファイル付きメールはそのまま受信者宛に送信。
- 4 解凍用パスワードを送信者に送付。
- 5 送信者はパスワード受信後、宛先を再確認し、個々の受信者宛にパスワードを送信。

というものです。ゲートウェイのため、導入や運用が容易で、パスワードもシステムが自動生成してくれるので送信者側の手間が省けます。一方で、いくつか運用上の注意点も指摘されています。

- ・ 一度送ったファイルのパスワードを覚えておくことが難しく、数日～数週間後にパスワードが必要になった場合に検索が難しい。
- ・ 送信者がパスワードを受信後に宛先に再送する際に、本来は宛先を再チェックすることが期待されているが、全てのケースで再チェックすることは難しく、実効性に疑問が残る。
- ・ ZIPファイルの受信制限を設けている企業が多く、宛先に届かないケースがある。

さらに、藤森氏はこのプロセスで、送信毎にエンドユーザーの側に発生する追加の操作(パスワードを受信して送り直す)にどれだけの時間がかかっているかをシミュレーションしてみました。

①メール送信

通常のメール送信作業の後に、パスワード通知のために②③④の追加作業が発生する。

②パスワードメール受信

②→③、③→④の作業にそれぞれ30秒かかるかと仮定すると、添付ファイル付きメールを1通送信するたびに約1分の時間がかかる計算。

③パスワードメール作成

従業員300人が一人あたり一日2通の添付ファイル付きメールを送信すると仮定すると、一日あたり600分=10時間。

④パスワードメール送信

従業員一人分のリソースをパスワード通知のために使っている計算になる。実際には、営業部員、アシスタントは一日あたり10通以上の添付ファイル付きメールを送ることもある。

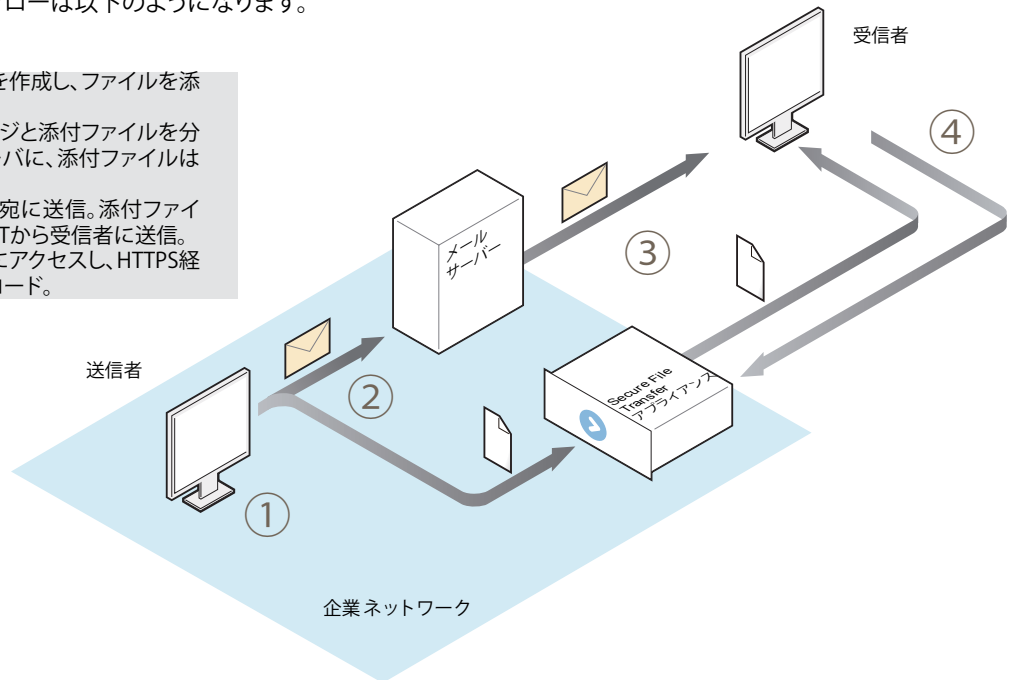
社名	株式会社ネットワールド
代表取締役社長	森田 晶一
資本金	5億85百万円
創業年月日	1990年8月1日
売上高	376億円(2009年12月度)
従業員数	323名(2009年12月度)
本社所在地	東京都千代田区神田神保町 2-4 Daiwa 神保町ビル

このシミュレーションにより、300人規模の組織でこのソリューションを運用した場合、実にフルタイムの従業員1人分のリソースに匹敵する時間が費やされていることが判明したのです。人件費に換算すれば、年間では数百万円になるでしょう。

PSFTで添付ファイルの暗号化を自動化し、利便性を向上

手間の問題に加え、メール添付では大容量のファイルが送れないのも問題でした。「大きなファイルを送るときは、外部のファイル転送サービスを利用していただこう。」しかし、外部のファイル転送サービスではログが残らないし、セキュリティ上も好ましくはありません。そこで、自らがディストリビュータとして販売しているProofpoint Secure File Transfer (PSFT)を採用することを決定しました。PSFTを使ったメールの送信フローは以下のようになります。

- 1 ユーザーがOutlookでメールを作成し、ファイルを添付して送信。
- 2 Outlookプラグインがメッセージと添付ファイルを分離し、メッセージはメールサーバに、添付ファイルはPSFTに送信。
- 3 メッセージはそのまま受信者宛に送信。添付ファイルのダウンロード用URLはPSFTから受信者に送信。
- 4 受信者はダウンロード用URLにアクセスし、HTTPS経由で安全にファイルをダウンロード。



エンドユーザーは通常のメール送信操作以外、何もする必要はありません。利便性を向上させるとともに、パスワードの送り忘れや送り間違いなどの様々なミスも無くすることができました。



ビジネスプロモーション部
ビジネス開発グループ
主任 藤森 謙氏

「あまりに便利なので、クチコミでユーザーがついてしまいました。」

「最初は、Proofpointさんから評価用のライセンスを発行していただいて、評価を始めました。評価でしたので、特に社内にも大きくアナウンスはしなかったのですが、評価期間中から、クチコミで評判が広まって、どんどんユーザーが増えていったんです。」

例えば、カタログ等の印刷用データは、大容量データの典型的なものです。デザイン会社に期間限定のアカウントを発行しておけば、PSFTで自由にデータのやりとりができます。期限が来れば使えなくなりますから、アカウントの管理も楽なのです。外部のファイル転送サービスを利用していただいていたユーザーも、徐々にPSFTに移ってきました。強制しなくとも、勝手にユーザーが増えていくというのは、サービスが本当に便利で、ユーザーに受け入れられたからなのでしょう。

VMwareのサポートでも大活躍

藤森氏はまた、「実は、PSFTのRequest File機能が、うちのサポート部隊で好評なんです。」と明かす。「ネットワークはVMwareのNo.1ディストリビュータなのですが、仮想化ソフトウェアのサポートでは、検証のためにゲストOSのイメージを丸ごとお客様から預かることが多いんです。そんなとき、お客様毎にFTPアカウントを用意したりするのは非常に煩雑になります。」そこでVMwareのサポート部隊が目をつけたのが、PSFTのRequest File機能だったということです。

Request File機能とは、PSFTのアカウントを持たない外部ユーザーでもPSFTにファイルを転送できる機能です。一定期間のみ有効な特定のURLをお客様に送り、そのURLにファイルを書き込んでもらいます。「ゲストOSのイメージは時にギガの単位になります。外部のファイル転送サービスでは扱いきれませんが、セキュリティ面の不安もありません。PSFTがあつて本当に助かっています。」

このように、どんどん新しい利用方法を発見して頂いているネットワーク様。自社の利用方法をベースにした提案は、同業他社とはひと味違ったものになっているに違いありません。

©2010 Proofpoint, Inc. Proofpoint Protection Server, Proofpoint Messaging Security Gateway, Proofpoint Spam Detection, Proofpoint Virus Protection, Proofpoint Digital Asset Security, Proofpoint Regulatory Compliance, Proofpoint MLX, Proofpoint Dynamic Reputation, および Proofpoint on Demand は、米国およびその他の国々における Proofpoint, Inc. の商標または登録商標です。この文書に含まれるその他のすべての商標はそれぞれの所有者の所有物です。

proofpoint™

お問い合わせ

日本プルーフポイント株式会社

〒102-0083 東京都千代田区麹町3-5-2 ビュレックス麹町

TEL : 03-5210-3611, FAX : 03-5210-3615

Email : sales-japan@proofpoint.com

URL : <http://www.proofpoint.co.jp>